

3) 新分野新製品の開発

藤 靖之・川久保 正行

現在、エコロジー等（自然回帰）の影響で、ガーデニングがブームであり、そのブームが、洋から和へと移行し、肥前地区の素材、技術が参入する絶好の機会である。今年度は、昨年試作したミニ盆栽鉢の多様化を行い、ミニミニ盆栽鉢、寄せ植え鉢及びガーデニング関連グッズとして噴水の試作を行った。また、エクステリア研究会、大有田焼振興協同組合を通し、当センターの試作品の商品化、企業独自の製品に対し商品化に向けての製造、デザイン等の技術支援を行い、展示会等の出展により市場調査、製品PR等販促活動が行われた。

また、ノベルティ関連事業として、カラクリ時計キャラクター人形の製作を行い、大有田焼振興協同組合、ハイテク有田焼人形委員会をとおり、商品化に向けての企画案を製作を行った。また、大有田振興協同組合デザイン研究会への陶器市100回記念品に対しての製造、デザイン支援を行った。

現在、肥前地区の陶磁器産業は、低迷の一途をたどっている。主な製品である業務用食器が外食産業の不況また日本人のライフスタイルの変化等により和食器の使用頻度が減少し、需要が漸減しているのが現状である。このような状況の中、新たな市場の開拓を目的に食器外製品の研究開発を行なった。また、大有田焼振興協同組合、エクステリア研究会への支援をとおり、展示会、講演会等により、市場調査、市場拡大を図った。

(1)ガーデニンググッズ製品の開発

1. はじめに

数年前より、エクステリア業界でガーデニング関連産業が急成長し、また洋風から日本風ガーデンへの流れが出てきていることに目を向け、有田焼のガーデニンググッズの提案を目標とした。

2. 研究開発の方向性

都市圏における住宅状況は、アパート、マンションといった集合住宅に占める住居者割合は、約70%といわれている。このような状況下においても、地面を利用するのではなく、室内、ベランダ、バルコニーといった所を使って、観葉植物、水耕栽培等のガーデニングが盛んに行なわれている。これに対し、鉢の素材としては、素焼き、プラスチック等が主である。ここで、有田焼の特徴であ

る無吸水性、インテリアとしての加飾等十二分に室内用ガーデニンググッズとしての条件を満たしている。

3. 試作

昨年試作したミニ盆栽鉢は、各展示会、テスト販売等で大変好評であったが、現在の市場においてもっと小さいものが好まれていることを、園芸研究家、一般消費者等より情報を得、今回はミニミニ盆栽鉢、寄せ植え鉢の試作を行なった。またガーデニング関連グッズとして噴水、バーベキューテーブルの試作を行ない、15年度福岡、東京で開かれる蘭展に向けて蘭鉢の製品開発を行った。

1) ミニミニ盆栽鉢、寄せ植え鉢

圧力鑄込成形によるシンプルな形状で、加飾は、ルリ釉に雲母金、銀の上絵転写を施したものと手描き下絵に白釉をかけ、金で上絵を施した2種類行なった。

・ミニミニ盆栽鉢形状8アイテム





ルリ釉シリーズ



一閑人シリーズ

・寄せ植え鉢形状10アイテム



2) 噴水

インテリア用のミニ噴水。大きさは、約20 × 30Hcm程度で、市販の最小の水中ポンプを使用し水を巡回させている。形状は4アイテム試作した。



3) バーベキューテーブル

以前バーベキューテーブルの試作を行なったが、台（木製、コンクリート、三間坂石）等焼物以外の部分でコストがかかるため、商品化が進みにくかった。今回、台をステンレスにし、コンロ部分は市販品を使うことで低コストでの試作をした。約30cm程度の角天板を組み合わせ、全体で140W×90D×32Hcm程度大きさで、8人が使用できる。角天板は取り外しが自由で、組み合わせ方で、全体の大きさは、色々と変えることができる。



ステンレス製台



4) 蘭 鉢

蘭展及び蘭の専門家の情報収集により、今後の蘭鉢の開発として、生活の一部、インテリア品として、蘭の観賞時期に使用する鉢カバーとして十

分期待ができる。来年度11月（福岡ドーム）、2月（東京ドーム）開催される世界蘭展に向け、試作を行なった。（石膏型原形25アイテムまで製作）



4. 展示会

テーブルウェアフェスティバル

暮らしを彩る器展2003

会期 2003年2月8日（土）～2月16日（日）

会場 東京ドーム

今回、国内特集有田展において、特別展示ブースでガーデニング紹介コーナーを設けたいとの、大有田焼振興協同組合より出展要望があり、センター、エクステリア研究会で出展した。また、主催者からの要望で、萌有田ガーデンコレクションというかたちで8ブースを使って、展示を行なった。会期中9日間で30万人をこえる来場者があり、

大盛況であり、有田焼食器外製品（ガーデニンググッズ等）を知らしめることができた。



ガーデニング紹介コーナー



萌有田ガーデンコレクション

世界のらん展日本大賞2003

会期 2003年2月22日（土）～3月2日（日）

会場 東京ドーム

主催者より展示以来があり、センター及びエクステリア研究会の試作品（ミニミニ盆栽鉢、ミニ盆栽鉢等）を出展、展示した。展示場所は、第7ゾーンの器に蘭をアレンジした「器と蘭（日本編）」で、ガラスケース内にて展示された。

9日間で、約47万人の来場者があり、ミニ蘭を植え込んだ鉢は、大変好評であった。



展示会場風景



ガラスケースにて展示



第18回有田陶交会九陶年次展

「町へ出ようよ！展」

会期 2002年3月18日(火)～3月23日(日)

会場 佐賀県立九州陶磁文化館

今回「町へ出ようよ！展」ということで、センターで試作してきたものを使いたいということで、テーブルセット、プランター、盆栽鉢、ノベルティ等試作品を提供した。また、センターの試作品(バーベキューセット、サイン等)の展示をした。



会場風景

その他

大有田焼振興協同組合、エクステリア研究会会員を中心に、センターの試作品の商品化へ向けて、三越日本橋での大有田焼展をはじめ、全10ヶ所にてテストマーケティングがなされた。

5. 講演会

「ガーデニンググッズの今後の展開について」

講師：園芸研究家 小泉 知彦氏

日時：平成14年7月25～26日

今後の製品開発、販売等についてアドバイスを頂き、各窯元にて実地指導を行なってもらった。

6. おわりに

当センター、エクステリア研究会、大有田焼振興協同組合との共同開発に於いて、各展示会等で一応の成果を得た。今後ガーデニングの市場は、植物への特化(流行)と併に一層の市場拡大傾向が見られるため、現在まで交流を行った、中央の園芸研究家の人々を活用し、付加価値の高い植物に対する製品の提案、特に蘭鉢を主にした製品開発を行なっていく。

(2) ノベルティ製品の開発

1. はじめに

当センターは、業界からの要望もあり、カラクリ人形、カラクリ時計キャラクター人形等肥前地区の様式、技術を取り入れた人形の製作を、業界一体となって進めてきた。ようやく、有田の人形が認知されつつある。しかしながらこれらの人形は文化的要素が強く、商品までいたっていない。そこでノベルティ産業を意識した製品の開発を目的とした。

2. 研究開発の方向性

有田焼カラクリ人形、カラクリ時計等有田焼人形製品の確立を目的とし、製品開発を行ってきた。今回、からくり時計に組み込まれているキャラクター人形を、単体の人形として製品化したいと、業界からの強い要望もあり、商品化に向けての研究開発を行なった。また、有田郵便局より、有田陶器市100回記念としてふるさと切手を発行するにあたり、大有田焼振興協同組合・デザイン研究会に焼物での切手スタンドの製作依頼があり、その形状、デザイン、加飾デザインの支援を行なった。

3. 試作

1) カラクリ時計キャラクター人形

原形、使用型修正を行なった。また単体での焼成のため、ともハマ及び受けハマの原形、使用型を製作し、カラクリ時計キャラクター人形17体の製品開発を行なった。

加飾については、コストダウンを目的に釉薬(白、色)の掛け別け、色呉須のスプレー掛け等を行なった。



修正カラクリ時計用人形 (石膏原型)



カラクリ時計 (九州陶磁文化館)



ともハマ及び受けハマ (素焼き)



カラクリ時計用人形 (石膏原形)





2) 切手スタンド



圧力鋳込みによる成形

4. 講演会

㈱ワイズワーク 取締役 山内 眞治氏にセンターのワークショップ事業、大有田焼振興協同組合の特産品づくりアドバイザー派遣事業によりカ

ラクリ時計人形の商品化及び販路について、3回の講演を行なった。カラクリ時計人形の商品化及び販路について、販売方法、製作のコンセプト等企画案を作成した。

製作メンバー、製作アイテム12体（四季×3）、販売方法として家庭画報などの有名雑誌等で通信販売及び小売り等が決定した。

講演日

第1回 平成14年8月22日（木）

第2回 平成15年1月27日（月）

第3回 平成15年3月3日（月）



講演会風景

5. おわりに

今後、カラクリ時計キャラクター人形について、商品化をすすめていくが、計画として大有田焼振興協同組合に於いて補助金の申請がなされており、これらを利用し、製作、展示会、図録等の製作、通信販売に於いての販売活動等を行なう予定である。